

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1154

金子 かずお気付

[kaneko@max.hi-ho.ne.jp](mailto:kaneko@max.hi-ho.ne.jp)

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2020年 4月7日 第1161号



## 議会報告・一般質問から

金子かずお議会報告

子どもの青い羽根募金について

質問・金子かずお議員



つくばこどもの青い羽根基金についての質問でございます。

つくば市では、子供の未来を支援するための新しい仕組みとして、つくばこどもの青い羽根基金を創設しました。寄附金は、NPOなどが運営する学習支援事業や子ども食堂を開く団体への補助、経済的に困難を抱える家庭の中学3年生を対象にした学習塾代助成といった子供の未来支援事業に充当するとしています。

今年度当初予算に3事業の経費を計上しており、寄附は、全国の個人や企業、団体が可能で、通常のおふるさと納税と同じく、額に応じては、

所得税や住民税の控除が受けられると聞いております。寄附した人には青い羽根を贈るとしてはありますが、つくばこどもの青い羽根基金の創設に当たり、その大きな理由をお聞かせいただきたいと思っております。

答弁・保健福祉部長

つくばこどもの青い羽根基金については、つくば市において、子供の未来を支援するための基金として、まちと企業、団体、市民の支えによって、子供たちの学習支援事業やみんなの食堂などに活用するためのものであり、ことし3月に条例を制定し、4月から寄附の募集を開始し、現在600万円を超えています。

質問・金子かずお議員

つくばこどもの青い羽根基金についてお尋ねしたいと思います。

先ほど、基金の創設の目的、お伺いしました。子供の未来を支援するための基金ということではありますが、私は、この政策について大変重要だと思っておりますが、本来ならば、学校や居場所の問題、貧困などは、これは国の大

きな責任で対応していくべき事柄ではないのかなと思っております。それは私が思っていることでもありますので、ここで改めて御意見を求めることはいたしません。が、子供の将来支援の取り組みについて、改めてお伺いしたいと思っております。

### 答弁・保健福祉部長

子供の未来支援事業としては、まず、つくばこどもの青い羽根学習会という名称で、経済的に困難を抱える世帯の4年生から9年生を対象に、学校の復習や宿題の習慣づけ等を事業者と協働で行っています。

また、みんなの食堂として、子供からお年寄りまでの居場所を運営する団体等を支援しています。

このほか、学習塾代助成として、経済的に困難を抱える世帯の9年生に対し、学習塾の利用にかかる経費を助成するなどの支援を行っています。

### 質問・金子かずお議員

ただいま答弁を伺いしましたけれども、現在までの事業者数とか対象者数とかは確認されていると思っておりますけれども、教えていただければと思います。

### 答弁・保健福祉部長

つくばこどもの青い羽根学習会は、平成29年10月に2カ所で事業を開始

し、昨年度は3カ所、今年度は13カ所に実施箇所を拡大しています。利用者は、平成29年度は35人、昨年度は80人、今年度は200人を超えています。

みんなの食堂については、昨年11月の補助金創設時は2カ所でしたが、現在は6カ所にふえています。

尚、この質問は昨年の12月議会で取り上げたものです。つくばこどもの青い羽根基金についての質問は次号にも続きます。

**子ども食堂**とは、地域住民や自治体が主体となって無料または低料金で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場を指します。

#### 子ども食堂が台頭した理由

**子ども食堂**が2012年にスタートを切り、その活動が短期間に全国に広がったのには理由があります。ひとつは、政府が2009年に初めて相対的貧困率（世帯所得が標準的所得の半分以下の割合）を公表したことで表面上は見えてこない貧困層の存在が、社会的に認知されるようになったためでしょう。もうひとつの理由は、子どもの貧困層が増加していることが挙げられます。子どもの貧困世帯はひとり親の家庭が半数を占めており、孤食も併せて問題として取り上げられるようになりました。このような子どもの食事難や孤食に対する問題は、親の就職状況や離婚状況が深く関連しているため、根本的解決方法を見つけるのが難しいのが現状です。